

UDC 681.3.04 : 003.324.2

X 4061

JIS

日本語文字列照合順番

JIS X 4061⁻¹⁹⁹⁶

(2002 確認)

(2007 確認)

平成 8 年 11 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主務大臣：通商産業大臣 制定：平成 8.11.20

官報公示：平成 8.11.20

原案作成協力者：財団法人 日本規格協会

審議部会：日本工業標準調査会 情報部会（部会長 棟上 昭男）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部情報電気規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

日本語文字列照合順番

X 4061-1996

Collation of Japanese character string

1. **適用範囲** この規格は、日本語を主とする表記に用いられる文字列を含むレコードの照合順番を規定する。このため、文字列の順序関係を定める照合規則を規定し、その照合規則のレコードへの適用の仕方である照合方法を規定する。

この規格で規定する照合順番は、次の三つとする（参考 1. 参照）。

- (1) 単純照合
- (2) 読み・表記照合
- (3) 代表読み照合

この規格は、辞書の項目、データベースの索引、書籍の索引、用語集、人名録などのように、各項目に施されている読み、その項目自体の表記などに基づいて項目を照合・整列する際に適用する。

この規格は、文字に基づいて規定するもので、その文字の見掛け上の属性には関与しない（参考 2. 参照）。文字の符号化は、処理系定義とする（6.2 参照）。

この規格は、外国語文字列の照合順番は規定しない。ただし、本来外国語を表記する文字又は記号であっても、日本語を主とする表記の一部として扱われる場合に限り、この規格を適用してもよい（参考 3. 及び参考 4. 参照）。

備考 1. 外国語文字列の照合順番は、それぞれの言語を対象とする規格に従うのが望ましい。ただし、それらの規格が存在しないか又は存在が分からない場合には、その外国語文字列にも便宜的にこの規格を適用してもよい。

2. この規格の引用規格を、次に示す。

JIS X 0208 情報交換用漢字符号

JIS X 0221 国際符号化文字集合（UCS）— 第 1 部 体系及び基本多言語面

参考 1. 単純照合及び読み・表記照合は一般に五十音順と呼ばれるものに対応し、代表読み照合は一般に電話帳順と呼ばれるものに対応している。

2. 文字の見掛け上の属性には、例えば、文字の大きさ、フォントの種類、強調の有無、色などがある。
3. 本来外国語の文字が日本語を主とする表記に用いられる場合には、例えば、ローマ字による日本語の表記（例 Kyoto, tsunami）、略語（例 JIS, FDDI, CD-ROM）、学術・技術上の記号及び呼称（例 π , λ 計算）、日本文中に引用する外国語の語句（例 identity, virtual function）、外国語の固有名詞（例 Carlos Kleiber）などがある。
4. 日本語を主とする表記以外で用いられる場合とは、例えば、キリールアルファベットがロシア語文章の表記に用いられる場合、漢字が中国語文章の表記に用いられる場合、音符が楽譜の表記に用いられる場合などである。

2. **用語の定義** この規格で用いる用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) **順序** 二つの項目についての前、後ろ又は同順位の関係。

備考 この規格の中では、順序を示すために次の略記法を用いることがある。

A < B: A は B より前の順序と評価する。

A > B: A は B より後ろの順序と評価する。